

幸せの収支決算—費用と便益

“自律的精神充足の期待値を最大化するために、プロジェクトを設定します。投入される費用は、時間、有形財産（お金・モノ）、無形財産（知識・スキル・体力・人脈）です。期待される直接的便益は、精神的充足（プラス）あるいは精神的ストレス（マイナス）です。間接的便益が、無形財産の蓄積です”

幸せの定義（目的）は、自律的に精神充足を得ることです。我々の日々の生活や人生の営みは、この目的に向かって適切に設計されているでしょうか。決められた制約条件（コストや期間）のもとで、目標を設定し、そのための行動計画を立て、達成に向けて努力することをプロジェクトと呼びます。共通の目標を有する集団に対して用いられるビジネス用語ですが、これは個々の人間分子に対しても適用することができます。多くの人間分子は、己が現在進行形で幸福のプロジェクトを実行しているという意識は薄いですが、来春には希望高校に合格してやろう、1か月で5kg痩せてやろう、なども立派な幸福のプロジェクトなのです。日々を漫然と惰性で過ごすのではなく、強く意識化すると、我々の生活や人生そのものが、超短期から超長期まで様々な幸福のプロジェクトの集合体で構成されていると考えることができるようになります。幸福のプロジェクトの究極的かつ共通の目標は、幸せを最大化することです。その実現のためには、幸せの収支決算を明確にしなければなりません。人間分子論で考える幸せの収支決算の概念を図17に示しました。

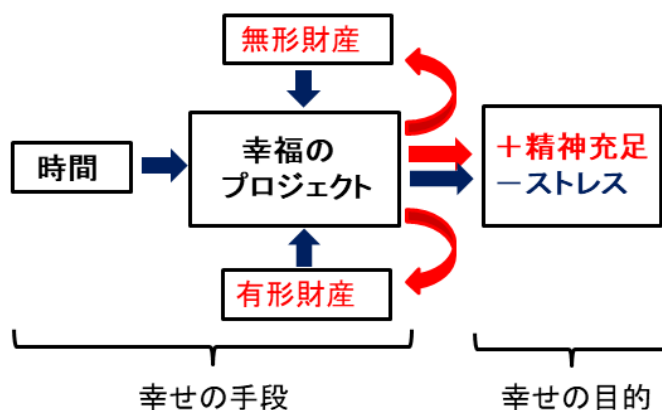


図17 幸せの収支決算:プロジェクトにおける費用(青)と便益(赤)

時間・有形財産・無形財産を費用として投じて、精神充足を得る。副産物として新たな無形財産・有形財産を得る

プロジェクトによって得られる便益（Benefit）は何でしょうか。1つは究極的目的である精神充足です。逆にプロジェクトによって発生する負の便益が精神的ストレスです。強調したい点は、プロジェクトは、具体的目標の成否に関わらず、その瞬間・瞬間、さらにはプロジェクト終了時において、精神充足が精神的ストレスを上回る黒字決算になるように設計されることが好ましいという点です。目標達成により多くの精神充足が得られることは当然としても、失敗した場合にも、出来ることはやった悔いはない、チャレンジして良かったと、ある種の自己納得、肯定的諦観に基づいて、失敗による精神的ストレスを上回る精神充足が得られるよう設計されるべきなのです。プロジェクトは博奕であってはなりません。失敗したら何もかも終わりだということではいけないのです。設計されたプロジェクトが、幸福の内的要因を制限する3要件（持続可能性・賄い可能性・合理性）を満たしたものになっているか、失敗した

場合でも幸せの収支が黒字として見込めるか、事前に十分留意されなくてはなりません。

プロジェクトによって得られる別の便益が、無形財産です。プロジェクトの成否に関わらず、目標達成に向けて努力する過程で、知識・スキル・体力・人脈など、幸せの外的要因（＝手段）となり得るような無形財産が得られるのです。プロジェクトが成功した場合には、有形財産であるお金やモノなどが、あるいは名声・地位などの別の形の無形財産が得られる場合もあるでしょう。人間分子論では、知能＝脳回路ネットワーク＝意思決定アルゴリズム、を深く学習させる3大要素が、遊び・自然・失敗であると考えます。失敗体験は、それが能動的学習として生かされれば、ある意味、成功体験よりも強烈な入力としてその人の知的回路をより堅牢なものにしていくのです。

プロジェクトに投入される費用（Cost）は何でしょうか。全ての人間分子、幸福のプロジェクトに共通した費用が「時間」です。80歳中盤まで生きるとして、我々に与えられているのは3万日に過ぎません。1日1円ずつ投資して、3万円投資で人生が尽きると考えると、時間価値というのは貴重です。別の費用が有形財産、とりわけお金です。これについては説明不要でしょう。別に投入される費用が、無形財産です。人間分子に帰属する無形財産（知識・スキル・体力・人脈など）がフル動員され、プロジェクトに投入されます。

有形財産は、万人共通の交換可能な財です。費用として投入されればその分だけ貯蓄（ストック）から減ぜられます。一方、無形財産は、個々の人間分子に帰属する交換不可能な財です。多くの時間と費用を要するためその取得は容易ではありませんが、ひとたび取得されると消費しにくい特徴を持ちます。従って、プロジェクトに投入されても有形財産のように直ちに減ずる心配はありません。それどころか、プロジェクト遂行の便益として、既得の無形財産がさらに強化されたり、新規の無形財産が得られたりすることが期待できるのです。無形財産は、極めてコストパフォーマンスの高い優れた幸せの手段なのです。

ある幸福のプロジェクトにおける、幸せの収支決算は以下のように要約されます。ある設定された期限内に、究極的目的である自律的精神充足の期待値を最大化するために、具体的目標を設定します。投入される費用は、時間、有形財産（お金・モノ）、無形財産（知識・スキル・体力・人脈）です。期待される直接的便益は、精神的充足（プラス）あるいは精神的ストレス（マイナス）です。具体目標の成否に関わらず期待される間接的便益が、無形財産の蓄積です。プロジェクトは、具体的目標が成功した場合はもちろんのこと、失敗に終わる場合も、精神充足が精神ストレスを上回る黒字決算となるように注意深く設計されなければなりません。無形財産は、費用として投入されても減じにくく、また、具体的目標が失敗しても便益として計上できるため、プロジェクトにおいて極めて強力な手段となります。